C－55 現代服の造形美意識について，

大分大教育　　釘宮久美

目的　衣生活は，多元的な性格を提示しつつ営まれているが，その中の造形表現にかかわる面に興味を持ち，問題点を追求しようとしているものである。服装に関する問題が，手と精神の問題に深くかかわりのあることを，今新らたに着目し，ここを起点として，服装の今日的あり方を求めるために，この題目を設定した。

方法　vogue誌の1972年，1973年，2年間の作品を，造形的立場より観察し，形，色，材質，を通して，その作品表現が意味するものを考察し，他の分野，すなわち，美術，建築，工芸，インテリアの世界とのかかわり方りを探ぐり，今日的性格を明らかにしたいと考えた。美術とのランデブーにおいて生まれる美意識に期待をかけた。

結果　服装造形の特徴的表現として，従来のアンサンブル形式の考え方から離脱した異質なものの組合せ，異質な形の重ね合せ，異質な模様の取合せ，という現象が目立つ。これらが意味するものとして，生活と時間とのかかわり方りが，服装造形を大きく支配していることを第一に指摘したい。異質なものの取合せは，時間への挑戦であり，変化という試みは，有限の時間を無限に使うことへの現代的欲求の一面を示している。今一つの特徴は，シンプルと露出の技法によるものであり，これは，巨大なテクノロジーの中での現代人が，生命の根源に立帰ろうとする欲求を示すものと見られる。今日，生活美意識もまた多様化を示す中で，この二つの方向が，特徴的に存在することを見出し，その理解を深め，衣生活設計を，人間本来の自然な姿に安定させるための思索と行動の糸口にしたいと考えた。